

倭 國

高柳重信

日讀童女を

誓ひて

樹つる

筑紫鉾

高田

下田に

銅鏡吊るし

すなはち鬼道

前妻

後妻

甘菜辛菜と

摘み分けて

舞う鳶と

海の

國見や

十年老ゆ

闇見田に

崩彦を

燔く

秋も闌けたり

水行

陸行

卑奴母離に

禽鹿の徑

魏は

はるかにて

持衰を殺す

旅いくつ

牛馬

鵲

はじめて渡る

奴の津の沖

壹岐も

對馬も

鰐鮫の背も

淡雪せり

鬼國と言へり

年経て

神の

栖むところ

砂地圖を指し

呪言せり

いざ

狗奴國へ

南に

火岳燃え

聞こえたる

卑彌弓呼は在り

八拳の鬚を

心前に

山背は

月讀の裔

仰げば

利目に

日月ならぶ

雁渡し

沖おきに

喚おんぶ神かみあり

卑ひ彌み呼こ

病やめりけり

稻いねも

蝗いなごも

もの狂ぐるふかな

卑ひ彌み呼この國くに

神かむ奈な備びに

雪ゆき兆あやし

哭なくは

男だん弟てい一い柱ちゆう

トして貞とふ

流は行り神がみ

はやるは凶きようか

雪ゆき夙しやくし

卑ひ彌み呼こ亡なし

循じゆん葬さうの

奴ぬ婢ひも

死しに盡つくし

倭わ國こく擾ぜう乱らん

眞ま神がみ

眞ま蟲むしも

急いそぐなり

(『山海集』より)

総ルビ・旧かな正字。
ただしパソコンで使えない
文字は使える文字で代用。